

平成28年1月1日発行

岩谷医院会報
第42号

岩谷医院

院長 岩谷 文夫 (循環器専門医、心臓血管外科名誉専門医、健康スポーツ医)

副院長 岩谷 恭子 (循環器専門医、内科認定医、産業医)

ホームページアドレス <http://iwaya-clinic.com>

謹賀新年

新年あけましておめでとうござ
います。平成二十八年の元旦を皆
様お元気に迎えられたことと思
います。

昨年もいろいろなことがありま
した。読売新聞の読者による世界
の十大ニュースの第一位はイスラ
ム国によるパリの襲撃事件でした。
世界に安全なところはないことを
実感した出来事でした。そして平

成二十七年の今年の漢字は安心安全の「安」でした。日本人
心からの思いです。一方、国内の十大ニュースの第一位は梶田
隆章先生の物理学賞、大村智先生の生理学、医学賞の昨年に次
ぐノーベル賞ダブル受賞でした。これは日本人にとって誇らし
いニュースでした。第二位はラグビー、ワールドカップでの日
本チームの活躍で、大会二回の優勝を誇る南アフリカに勝利し
た試合は奇跡とまで驚かれ、結局計三勝を挙げた日本の実力は
本物でしょうね。五郎丸選手が一躍有名になりました。

奇跡といえばフィギュアスケートの羽生君もすごかった。ス
ペインのバルセロナでのグランプリファイナルで、世界歴代最
高得点となる330.43を出して男子初の三連覇をはたした
ことは記憶に新しいところです。野球の世界大会は準決勝で韓
国に敗れ残念でしたが、ゴルフ、パドミントン、卓球など若い
人の躍動が目立ちました。惑星探査機「はやぶサ二号」は十二
月三日に地球の重力と公転を利用して加速し進路を変更する
「スイングバイ」に成功しました。これも奇跡に近いニュース
でした。奇跡の話が続きましたが、奇跡を起こすのは偶然では
なく日ごろからのためまぬ努力の積み重ねがなせる業ですね。
岩谷医院はそんな奇跡は起こせませんが、来院した患者さんが
少しでも幸せを感じる小さな心の奇跡をもしかして起こせたら、
こんなうれしいことはありません。

今シーズンは暖冬の影響でしょうか？ 福島は穏やかなお正月
でした。昨年は十二月になっても、結局岩谷医院ではインフル
ルエンザの患者さんは来院せずという奇跡に近い大変珍しい現
象が起こっています。このまま流行が来なければよいのです
が…

岩谷医院スタッフ一同今年もより良い医療をめざして頑張
りますのでよろしくお願いたします。



平成28年の初日の出

院長より一言

ロコモティブ症候群 (通称ロコモ)

聞きなれない言葉ですが、ロコモとは運動器症候群(ロコモティブシンドローム)の略です。体の運動器の障害により「要介護」になる可能性の高い状態になることです。

運動器の障害には1) 運動器自体の疾患によるものと、2) 加齢による運動器の機能不全によるものがあり前者には様々な病気、たとえば腰や膝などの変形性関節症、骨粗鬆症による背骨の変形、関節リウマチによる障害などが含まれますが、後者は加齢による身体機能の衰えによるもので、筋力低下や持久力の低下、バランス能力の低下などがあり、そのために容易に転倒しやすい状態になります。1) は病気ですので医療が必要ですが、2) は加齢による機能的なものなので、何とか日頃の生活の中で食い止めたいですね。やはりおすすめはウォーキングと体操です。患者さんの中には毎朝30分以上の散歩をして、その後に6時半からのラジオ体操をしている方もいらっしゃいます。とても若々しいです。体の一部分だけを鍛えるのではなく全体のバランスを考えながら運動をすることが大切です。胸をはって新鮮な空気を吸いながらのウォーキングや軽いジョギングそして無理のない全身の体操は体だけでなく、頭もリフレッシュさせてくれます。これなら誰でも出来ますよ。さあ、今年ロコモ退治と行きましょう。

不安

太田まち子さん

ふみは、黄色い三尺が解けて足に絡まりつくのにもかまわず、さつきから人垣を掻き分け掻き分け夢中であつた。踊りの輪が二重にも三重にもふくれ、そして広くもない公園が埃と人いきで噎せ返るようである。

ふみは此の夜、久し振りに合う母に連れられ仕立下ろしの浴衣を着せて貰い、K町の盆踊りを見に来たのである。

途中母は大きなリボンを買って、ふみのオカッパ頭に付けて呉れた。

右手でそつとリボンを抑え、左手で母の手にしつかりつかまつて、背伸びし乍ら踊りを見ていた。ふみは嬉しきで胸が一杯であつた。それに母が若くて綺麗だと言ふ事も内心得意であつた。ふみは時々母を盗み見しては浮々していた。母の手がふみの手を離れた、振り返ると母はふみの知らない男の人と何か話して笑っている。華やいだその母の笑顔にふみはふと母を困らしたい衝動に駆られ後をも見ずに歩き出した。そして暫くしてそつと戻つてみた。しかしそこにいる筈の母の姿はなかつた。予期しなかつたことに幼いふみは狼狽した。バラ線に足を引掻き血を流しているのも、帯が解けたのも気が付かなかつた。

そしてやつと人混みの中に母を見つけた時、ふみは膝から度々に力が抜けていくのを感じた。わつと母の腰に取り纏つて、右手で母をぶち乍ら泣き続けた。母は「もういいじゃないの」と云い乍ら連れの男と声高く笑つた。それはふみの心に胸の痛くなるような不安を誘う響きがあつた。ふみは涙の目でじつと母とその男の顔を睨めつけていた。

その男がふみの第二の父となつたのは、それから間もなくのことであつた。

*小説風自伝なのでしょうか？ 本当に太田まち子さん

は多才ですね。(院長)

特別掲載

野球シーズンを迎えて、思いつくままに

岩谷医院 岩谷文夫

『福島医科大学準硬式野球部部誌』たかが野球、されど野球の平成二十二年掲載文より一部抜粋いたしました。またまた野球の話題で恐縮ですが、五年前の斎藤佑樹投手の日本ハム入団時の文章ですのでお読みいただければ幸いです。』

ところで今年のプロ野球キャンプは、日本ハムの商業戦略かとも思えるほど斎藤佑樹君一色でした。さわやかな顔立ちと浮ついたところのない落ち着いた物言いはやはり何かを持っているのでしょうか。今までの実績を見ても甲子園の優勝投手をへて、早稲田大学での四年間で三十二勝の成績は申し分ありません。これからの活躍が楽しみです。はたしてプロ野球ではどうでしょうか？ 巷での評価は評論家も含め分かれてくるようですが自分なりに評価してみるのも楽しいですね。斎藤君の投球はテレビでの映像だけで直接見たことはないのですが、私なりに分析すると、キャンプでの映像では、体のひねりが少なく打者に正面から向かってくるので、打者にとって威圧感に欠け、ボールが見やすい。140km/h台のスピードでプロの打者は抑えにくいなどがマイナス面ですが、その分コントロールが良く、打者を追い込んでから、低めでの落ちる球やスライダーが良いところに決まればなんとかなるかなどと予想しています。ちなみに、今朝(二月六日)のテレビ番組『サンデーモーニング』ではかの四百勝投手金田正氏氏がコメントターとして出ていましたが、斎藤投手については、あれだけの実績を出しているのだから、そこそこやるだろうという見方でした。シーズン前に話題の選手のプロ入団後の活躍を予想するのはファンとしては楽しいですね。本人は必死でしょうけどローラー。そしてその若さあふれる投球はファン

川柳箱より(短歌、俳句、川柳、詩など)

蒲倉琴子さん(福島市松川町)

俳句

存念の永遠の命と若井汲む

未知の日のありてこそ善し初暦

ワイナリーの樽眠りるむ冬隣

平成二十七年福島県芸術祭文学部門特選句

梅雨冷や糸底粗きマグカップ

*今回も素敵な句をありがとうございました。特選とはすばらしいです。(院長)

川柳

翔屑(しょうせつ)さん(福島市天神町)

新春に後光差してるゆきさうさぎ

自衛隊地球の果てまで行くつもり

勝ち再任負ければ解任プロ監督

まだ読める新聞活字メガネなし

第四十三回福島県川柳大会
第二十八回福島市民川柳大会

題：眠い

入賞第1位

安眠法眠い九条冴えてくる

佳作

残業で睡魔と闘う新社員

短歌

特老のベッドで仰ぐ冴ゆる月

庵で妻も同じ思いに

*老人ホームの園長時代に入所者の姿を見て詠まれた歌だそうです。翔屑さんの意欲は衰えを知りませぬ。(院長)

俳句

康子さん(伊達市)

二筋の噴気ふつつ山眠る

白鳥の声浴び朝の厨事

を魅了します。時代の違いで印象に残っている選手は人それぞれ違いがあると思いますが、高校での投手で私が一番強烈な印象を受けたのは当時の浪速商業出身の尾崎投手です。怪童尾崎と言われ、並はずれた上半身の力をダイナミックに使ったストレートはゆうに150km/hを超していたと思います。その年のオールスターでセリーグの強打者をバツバツと三振に打ち取った光景は今でも目に焼き付いています。

甲子園の優勝投手のプロ入り後の活躍について、私の予想が見事外れたので印象深いのは、工藤公康投手と、桑田真澄投手でしょうか。工藤投手は今シーズンには休養宣言をしたものの、すでに二百二十四勝をあげ、まだ現役にこだわり続けている四十八歳の大投手ですが、名古屋電気高校のエースとして甲子園でも優勝しています。高校時代から大きなカーブが武器でしたがこのカーブだけではプロでは難しいかなと予想していました。しかし、その後の活躍は皆さんの知るところで、彼の野球人としての資質をブラウン管からは見抜けませんでした。才能もさることながらプロになつてからの努力が並みのものではなかつた結果と信じています。

桑田投手の場合はPL学園高校で二年生からエースとして夏の甲子園で優勝したあと、五季連続出場を果たし、二度の優勝と、二度の準優勝、さらに甲子園での六本塁打は同僚の清原選手に次ぐ歴代二位の記録を持つ天才選手でした。当時の彼をテレビで見ていて、これだけ酷使された彼の肩はプロに入つて、はたしてどれだけ耐えられるのだろうかというのが率直な印象でした。しかしこの予想も見事に外れてしまいました。その後の彼のプロでの活躍は素晴らしく通算百七十三勝をあげ、二〇〇八年に現役を引退したことは記憶に新しいところです。これだけ彼が現役を続けられたのはやはりあの無駄のない理想的な投球フォームと野球にかける哲学的ともいえる情熱があつたからこそとまさに脱帽です。投球に必要な肩は投げれば投げるほど鍛えられるのかもしれませんが、やはり無理のない理想的な肩の使い方が長持ちの秘訣なのでしょうね。そういう意味では斎藤佑樹君の無駄

のない投球フォームには長期的にみれば期待できるのかもしれない。第二の桑田投手をめざしてもらいたいものです。

理想的な美しい投球フォームといえば、中学時代からサイドスローの投手だった私の憧れは杉浦投手でした。背番号は21。立教大学では長嶋選手と同期です。若くして記憶はないでしょうが南海ホークスのエースとして、二年目の一九五九年には二十九勝四敗という驚くべき勝率を上げ、その年の日本シリーズでは巨人相手に二戦目から四戦まで四連投して四連勝して南海を初の日本一に導きました。その下手から繰り出される伸びのあるアウトコース低めへの速球は私には芸術品にみえました。なんとか少しでも近づきたいと努力しましたが、私には杉浦投手のような股関節の柔らかさはなく、どちらかといえばやはり南海フォークスのエースであつた皆川投手(通算二百二十一勝)に近いフォームだったかもしれません。私も当野球部では安積高校出身の投手が入部するのを期待されていたようですが、高校三年時には、すでにひじを痛めており、入部後に華麗なフォームをお見せできなかったのは残念でした。杉浦投手は通算百八十七勝をあげましたが連投による右腕の血行障害などがあり、名球会入りは果たせませんでした。

名球会とは昭和生まれのプロ野球選手とOBで、日米通算の記録が投手は二百勝または二百五十セーブ、打者は二千本安打以上が参加資格です。野球普及への貢献など細かいことは省きますが、野球人として輝かしい記録であることには間違いありません。投手は物語者を含め二十名が登録されていますが、通算勝数二百勝以上の登録は十七名で大学卒は村山実投手だけです。二百五十セーブ以上の登録は三名ですが、こちらはいずれも大学卒となっています。いかに大学卒での二百勝達成が難しいかがわかります。ちなみに、かの怪物江川は通算百三十五勝で引退しています。

平成二十三年三月六日

おわり

オリオンや今日をたっぶり生きました
身の幅に雪掻き隠れごころかな
飴色を深めるこけし雪籠

*この感性の素晴らしさに脱帽です。(院長)

伊藤ミツイさん(福島市太田町)

俳句
歩をとめて朝のベンチに緑風
夕暮れや独居の庭に夏落葉
送り盆ちぎれちぎれにちちろ鳴く
満月を友に誘われ外で見る
菊日和戸を開け放しお茶にする

*そのままの飾らない表現がいいですね。(院長)

詠み人知らず

川柳

冬めくや予防接種の針光る

*このように匿名の方も大歓迎ですので気軽に川柳箱にご投稿ください。(院長)

特別寄稿

すでに2年前に金婚夫婦になられた私の高校時代の恩師の三浦賢一先生ご夫妻ですが日記代わりに歌を詠まれています。その一部を特別にご紹介いたします

短歌

喜寿の妻へ

子育ても孫の子守も済みし妻
楽しみ求めて健やかであれ
喜寿迎え妻子孫らと宴する
この喜びを何にたどらん
喜寿を迎えし妻にただ有難うと
ひたすら呟く

近詠五首

無呼吸を案ずる妻に付き添われ
重度と告げられ茫然となる
無呼吸の治療の器具をちげし夜
まじろみもせず朝を迎える
ひたすらに介護にあたる我妻の
髪の乱れの愛おしきかな
老化とはいはず加齢とつげる医師
の一言におもわず微笑む
力もなきに多くの人に助けられ
務め果たして悔いなしと呟く

患者さんのコーナー

「書道歴40年で初めての個展」
福島市矢剣町 山本梢陽さん

*「難しく思われがちな書を気楽に楽しんでもらえれば」と福島市内で個展を開かれました。診察の時は「忙しい忙しい」とどこがお悪いのか困惑していますがその緊張感がいいのですね。(院長)



「盆栽コレクション」福島市矢剣町 Mさん

*Mさんの盆栽コレクションは3年目になります。これまで多くの患者さんの目を楽しませ、そして癒しになっています。医院にとっても有難い限りです。(院長)
日本カマツカ 青ツツラフジ 美男カズラ



紅梅



老爺柿 ウメモドキ ヒメリンゴ

医院からのお知らせ



今シーズンはインフルエンザの患者さんが少なく、現在のところ流行の兆しはありませんが、暖冬の影響でしょうか？ このままの状態が続けば良いのですが、厳しい寒さと共に患者さんが増えることも予想されます。インフルエンザのワクチンにはまだ余裕がありますので、油断せず流行が始まる前に接種されることをお勧めいたします。希望の方は受付にてご相談ください。

医院だより

待合室の絵は約半年ぐらいで変えるようにしていますが、昨年のはほぼ1年にわたり坪内良子さんの銅版画を数点展示いたしました。「ゆきうさぎ40号」でもご紹介いたしました。その作者の坪内さんが昨年11月10日に突然来院され驚きました。待合室の雰囲気を変えたい、患者さんとも談笑されていました。やはりとても素敵な方でした。(院長)



我が家のペット 15



野田町高野家のオカメインコのベッカム君

5歳。話はずいぶん名前を呼ぶと返事をします。家の中を自由に飛び回り、肩にとまります。大好きな食べ物はピーナツやせんべいだそうです。

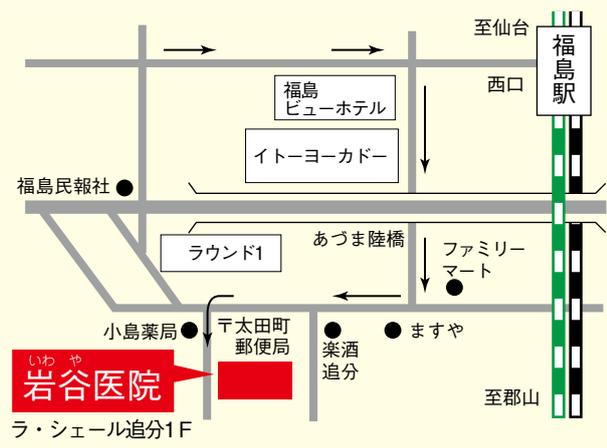


我が家のペット 16



猫ちゃん3面相

菊谷家のハルちゃん、約10歳のオスです。どんな時でも家族を笑顔にしてくれます。元気の源で我が家のスーパーアイドルです。(美穂さんより)



【福島駅西口より 徒歩7分】
〒960-8068 福島市太田町17-27ラ・シェール追分1F
でんわ 024-528-7770 / FAX 024-528-7780

★診療時間(予約の方が優先されます)
平日(木曜日を除く)は 午前9時～12時 午後2時～5時30分
土曜日は 午前9時～午後2時(昼休みなしで診療いたします)
休診日は 日曜日・祝祭日・木曜日

★診療項目
内科疾患・循環器疾患・動脈疾患・先天性心疾患・人工弁管理・ペースメーカー管理・人工血管管理・基本検診・健康スポーツメディカルチェック など

あとながき

元日恒例の初日の出はあいにくの曇り空でしたが、この時だけ雲が切れ表紙の写真が撮れました。撮影場所の横には除染中の立て札があり、原発事故の影響はこんなところにもまだ見られます。川柳箱には時に思いがけない投稿があり今年も楽しみです。我が家のペットにもユニークな写真を是非ご投稿下さい。院長の野球の話が続きましたので患者さんからの話もお聞きしたいですね。今年も「ゆきうさぎ」をよろしく願いいたします。